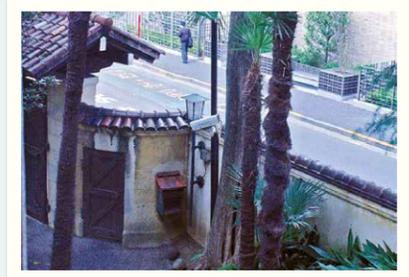


「ちよっと探訪」では、知人ぞ知るちよだの魅力に迫ります。第15回は、通常一般非公開の「九段ハウス(旧山口萬吉邸)」に我々編集部員が潜入しました。

個人の邸宅として1927年竣工。戦禍を乗り越え、住宅としては1階部分以外があまり活用されていなかったという時期も経て、2018年に会員制のビジネスインベーション拠点へと蘇りました。ビジネスの場面で大切なお客様を迎える際に利用されるほか、ブランドの展示会場やワークショップ会場として開放されます。お話を伺ったのは、現在運営を担うコンソーシアムのうち1社、東邦レオ株式会社の長島あかり氏です。



関東大震災後に当時最新の耐震技術を集め、意匠にもこだわった建築はもちろんですが、ぜひ緑豊かな庭園にも注目したいところです。竣工当時からオオシマザクラやヤシ、クスノキのほかにモミジが新しく植えられ、取材時には見事な紅葉が見られました。そんな九段ハウス、一般公開されていないのは惜しいような気がします。しかしあえてクローズにすることで経済性を生み出すこと、そして資料館のような展示・鑑賞される建物ではなく、現役の生きた建物として利用することで、より永く未来へ残す道を選んだのだそう。



2025年には、受け継がれた調度品をフル活用して持ち込み大道具なしで敢行した観客巻き込み型オペラ上演をはじめ、庭園を舞台に樹木医や庭師を講師に迎えた小学生向けプログラムなど、新しい挑戦も行われています。運営会社は「編集」の立場で、利用者のクリエイティビティと九段ハウスの空間とが効果的に響き合うような取り組みを続けていきたい、と長島氏が展望を語っていただきました。



人と人の距離が近い「家」という空間を活かし、ここでしかできない出会いや学びを提供する九段ハウス。この先もさまざまな物語がこの場所で紡がれることでしょう。



写真左列 [上段] 居室の多くは庭園側を向き、風景は額装された絵画のように美しく映る [中段] 一方、来客にすぐ気づけるよう表通りに面した女中部屋から、和の趣の門を見下ろす [下段] 当時の調度品を修繕して今も使っている
写真右列 [中段] ボイラー設備も創作意欲を刺激する大切な舞台装置 [下段] 文教エリアに異世界を思わせる、森のような空間

INFO 九段ハウス 〒102-0073 千代田区九段北1-15-9 <https://kudan.house/> *地下鉄「九段下」駅1番出口から徒歩5分

〈編集後記/遠藤〉今回の特集取材で、地域福祉交通「風ぐるま」を利用しました。ICカード乗車の場合、90分以内なら追加料金がかからず別ルートへの乗り換えも可能(R7年12月現在)。大型バスが通れない踏地に入っていくのも面白いです。車窓から、興味深いお店にもたくさん出会えました。今号では取り上げられなかった場所もまだまだたくさんありますので、便利な「風ぐるま」に乗りながら、ちよだの歴史に浸る「発祥地」巡り散歩やディープな千代田区探訪をしてみたいかがでしょうか。

DanDan 読者アンケート

皆さまのご意見・ご感想をぜひお聞かせください。アンケートフォームよりご回答いただき、九段生涯学習館1階受付でメール画面をご提示いただいた方には当館オリジナルグッズをプレゼントいたします。
※先着順/なくなり次第配布終了となります



DanDan Vol.40

学んでつながる



「点と点がつながった」。思いがけない組み合わせで、思いも寄らない知識にたどり着いたときに使う表現です。学びによって得た知見は、元は小さな・(点)だった誰かと誰か、過去と今と未来、何かと何かをつなぐ

パーツとなり、そうしてできた○(わ)がまた新たな学びや視点へつながるループの中で私たちは生きています。さあ、千代田区内に散らばる○のパーツを探しに出かけてみませんか?

DanDan40号記念企画「発祥の地」めぐり



〔2016年撮影〕

》おかげさまで、DanDanも本号で40号を迎えることができました。記念すべき40号では、青果市や学び舎などの「発祥の地」を特集。人々による営みの軌跡が、「記念碑」という形に変わり受け継がれ、移り変わる街や行き交う人々を見守ってくれています。区内に存在する様々な発祥の地の“今”をお届けすべく、DanDan編集部が現地へ向かった様子をお届けします。

》学びの街ちよだ

《東京大学発祥の地/日本野球発祥の地》

東京大学発祥の地と日本野球発祥の地が、地下鉄神保町駅近くの学生会館敷地内にあります。こちらをはじめとして、どうやら千代田区には名高い教育機関のルーツが多数存在しているようです。東京大学発祥の地はすなわち我が国の大学始まりの地。東京開成学校と東京医学校が合併し明治10年に設立されました。さらに、同校が第一大学区第一番中学といわれていた明治5年、アメリカ人教師が生徒たちに野球を教え始め、翌年運動場が整いついに試合が行われたそうです。これこそが「日本野球」の始まりなのだとか。学生会館改装工事のため残念ながら実物を拝むことが叶いませんでしたが、縁あって当館スタッフが過去に撮影してくれていました。ボールを握る拳の造形は画像でも伝わるほど、実に力強く見事です。

日本野球発祥の地 》 〒101-8459 千代田区神田錦町3-28 学生会館敷地内 *現在改装工事中



●学んでつながる○ | DanDan40号記念企画「発祥の地」めぐり
●L.L.News | 教養講座/ちよだ生涯学習カレッジ第10期入学募集のお知らせ/
すばすちよだクラブ会員募集中 ●ちよっと探訪 | 九段ハウス(旧山口萬吉邸)



START

今号の取材では、区内3駅付近の発祥地を訪問します!

飯田橋駅 周辺



JR飯田橋駅側、東京通信病院前の生垣の中にまず「**日本赤十字社発祥の地**(A)」の記念碑を見つけました。碑文には、多くの死傷者を出した西南戦争(明治10年)の際、佐野常民と大給恒両元老院議員らによって敵味方関係のない救護活動を目的に創立した、という同社の歩みが日本語と英語で刻まれています。



次に、地下鉄飯田橋駅A5出口より東京区政会館へ足を向けると、複数の教育機関の記念碑。歩道を挟み、区政会館側には「**日本医科大学付属第一病院記念碑**(B)」と「**日本大学・國學院大学発祥記念碑**(C)」「**日本大学・國學院大学開校の地**(D)(E)」の石碑が、道路側には「**東京府立第四中學校発祥の地**(F)」の石碑が建っています。多くは、区外に拠点を移しているものの、明治15年に創立された國學院大学の母体「**皇典講究所**」、明治22年の日本大学の前身「**日本法律学校**」、明治34年の「**東京府立第四中學校(現・戸山高校)**」など、歴史的な教育機関の礎が築かれた地です。さらにA2出口の方へ回り込むと、「**飯田橋の由来**(G)」を示す標柱も見つけることができました。発祥の地というテーマとは異なりますが、街の歴史を探るうえで貴重なピースのひとつです。

神田駅 周辺



地下鉄神田駅6番出口より靖国通り方面に歩くと、江戸の青物市(やっちゃん場)として地域の商いや食生活を支えていた「**神田青果市場発祥の地**(H)」が、関東大震災で一度は壊滅状態となりましたが、復興し昭和3年には秋葉原西北へ、平成2年から大田区へ移転されています。神田駅へ戻り東口より徒歩3分。ビルの壁に埋め込まれ、駅方面からだとうろく見逃ししてしまいそうな「**謄写版発祥の地**(I)」があります。別名「**ガリ版**」とも呼ばれ、現代のコピー機の元祖といわれているそう。明治27年に堀井新治郎父子が発明し「謄写版」と名付けられました。

神保町駅 周辺



表紙の「**東京大学発祥の地**」の少し先に「**東京外国語学校発祥の地**(J)」の記念碑が建っています。五代将軍綱吉により、一ツ橋の地一帯に大きな密教寺院「**筑波山護持院元祿寺**」が作られ、その跡地に開設されたそうです。神田警察通りを進むと「**正則学園高等学校**」の看板が。下部に「**正則英語学校発祥の地**(K)」の文字。明治29年に正則英語学校として創立され、現在は普通科高等学校となり引き続きこの地にあります。さらにいくと、神田スクエアの敷地内に記念碑「**電機学校発祥の地**(L)」が建っています。西洋技術者育成のため夜間学校として開設されたのが始まりだそう。仲良く隣に並ぶのは「**東京電機大学記念碑**(I)」。学び舎は足立区の千住キャンパスに拠点を移し、今も変わらず科学技術者を育成しています。

GOAL

これらの記念碑は、千代田で生きた人々が未来を担う学生たちへ豊かな知識を授けるための街づくりをされてきた証。教育への想いが全国各地へ受け継がれていることに、ロマンを感じる旅となりました。

わ

教養講座 — 食べて学ぶ、スパイスの国「スリランカ」

講座レポート▶▶▶ 2025年12月12日[金] 19:00-20:50(全1回) 講師:香取薫(インド・スリランカ料理研究家)

L.L.News 1



▲スリランカの太陽を思わせる笑顔の香取氏

現地で料理修行をされた講師が、実際に使用されている調理器具の実物や装飾品を持参され、美しいビジュアルイメージと共にスリランカの美味しい魅力を語ってくれました。

▶▶▶講師は三鷹市でインド料理スタジオを主宰する傍ら、日本で初めてスリランカ料理のレシピ本を出版されるなど、日タインド・スリランカ文化を広める活動をされています。本講座では、自身が撮影した色あざやかな写真を投影しながら、料理修行のなかで得たスリランカ人の暮らしの知恵や感銘を受けた文化について、実体験に基づきユーモラスに語ってくれました。日本と大きく異なる点として、台所の構造などがあります。煙が多く出るため、かまどが屋外に設置され、「ワラン」という素焼きの土鍋が使用されています。そして驚くべきは包丁の使い方。むき出しの刃を上側に向け机の端に刺し、

自分のお腹を押さえながら、食材を刃に押しあてて刻むとのこと。お腹周りが立派な方ほど重宝されるというお話には思わず講義室中に笑い声が響きました。気軽に楽しめるスリランカ文化として「**キリ・テ**」というミルクティーのレシピもご紹介。セイロンティーを淹れ、現地流にたっぷりのパウダーミルクを混ぜます。当日は日本の冬バージョンとしてハーブでできた伝統薬サマハンブレンドして楽しみました。スパイスで、甘くクリーミーな紅茶です。香取氏がスリランカに関心を寄せた入口の紅茶文化は植民地時代の名残ですが、入ってきたものを拒まず受け入れて自国の文化として育む、大らかで温かいスリランカ人の心が伝わる講座となりました。



現地で購入されたワラン。傷つけないよう木製のおたまを使います

わ

ちよだ生涯学習カレッジ 第10期(2026年)入学募集のお知らせ

5月より開講予定の「ちよだ生涯学習カレッジ」第10期の受講生を募集します



L.L.News 2



▲講座の様子「ちよだの魅力にせまるアートビクニックとお茶の水」

▶▶▶第一線で活躍する実力派の講師陣による講義を軸に、地域の実践者に出会い、人とコミュニティをつなぐ資質を育みます。まずは、公開講座にご参加ください。

第10期ちよだ生涯学習カレッジ 地域デザインコース入学募集公開講座 「つながり合う学びへの第1歩」4月22日[水] 19:00~20:00

- ①カレッジ紹介 ②入学案内 ③質疑応答
- ④てい談:ちよだ生涯学習カレッジ 笹井宏益氏[玉川大学学術研究所客員教授]+坪内一氏[千代田図書館職員]+ちよカレ第9期卒業生

卒業生の声 Q.入学動機は何ですか?▶▶▶引込み思案を克服したく、「自分に向き合う」「他者とつながる」というプログラムに興味をもち入学しました。

わ

すぽすたちよだクラブ 会員募集中

千代田区立スポーツセンター▶▶▶内神田2-1-8 ☎03-3256-8444 [営業]9~21時(毎月3日曜日休館、祝日の場合は翌平日)

入会申込窓口・問合せ先 /



L.L.News 3

▶▶▶月会費のみで、各種「スポーツ」「スタディ(一部プログラムは+材料費)」プログラムに参加できる会員制システムです。さらにスポーツセンターのトレーニングルーム・プール・各競技場の個人利用も無料になります。会員は随時募集中! *写真はスタディプログラムの例



会員区分案内

- 区民(区内在住・中学生を除く15歳以上) →月会費 4,000円
- 区民高齢者(区内在住・60歳以上) →月会費 3,000円
- 一般(中学生を除く15歳以上) →月会費 5,000円